



今号の主な内容

人権作文コンテスト入賞・成人の日のつどい…2面
中学生の主張大会・児童クラブ入会申込み受付…3面
スポーツセンター・ふるさと歴史館・健康…4面
消防団出初式・多摩六都・みんなのひろば…5面
今月の相談・夢ハウス・みどり・官公署…6面

迎春



本町都営住宅11階より富士山を望む(手前右は本庁舎、左は「いきいきプラザ」)

市民の皆さん、新年明けましておめでとうございます。昨年、イラク問題や拉致問題等を通じ、平和とは何か、人権とは何かが問われた一年であったといえます。また、日本経済は厳しい状況が続き、市民の皆さんも家計を切り盛りの苦勞が切実な状況が続いておられます。今年こそは、明るい光がさしてくることを信じ、微力ながらそのための努力を続けたいと強く思っております。

さて今年、東村山市は市制施行40周年を迎えます。東京オリンピックが開催された昭和39年、東京で13番目、全国で59番目の市として誕生しました。当時の人口は6万6千人あまりでしたが、都心への通勤の便が良いベッドタウンとして増加を続け、昭和47年

新年明けましておめでとうございます。昨年は、国の内外で多くの事件が発生し混沌とした一年でありました。特に海外ではイラク戦争、テロ、SARS、北朝鮮の拉致・核兵器開発等々、世界の平和と安全を脅かす出来事が頻発し、国際社会における日本の役割が問われた一年だったと思います。

そうした中、イラクの復興支援に携わっていた奥大使、井ノ上書記官が犠牲となられたことは、誠に残念であり、心よりの哀悼の意を表するところであります。国内では、経済によりやく回復の兆しが現われはじめたものの、実感としては相変わらず厳しさが続いています。今年こそ、地域経済や市民の皆様の家計に明るさが戻るこ

には10万人を突破。市制が施行されてからの約20年は、人口の増加に伴う学校教育施設の建設、生活の基本である道路や上下水道の整備など、財政の厳しい中で市民・議会・行政が一丸となって、まちの基盤作りに取り組んでこ



東村山市長 細渕一男

られた時代といえるでしょう。後半の20年には、ごみ処理の問題が焦点の一つとなり、市民の皆さんのご理解とご協力を得ながら現在のようになりサイクルの仕組みづくりが進められてまいりました。また、

を願って止みません。さて、我が東村山市では昨年4月に、市議・市長選挙が行なわれ、26名の議員が市民の皆様からの信頼をいただきました。5月の臨時市議会では、私が議長に選任されるなど議会の役割も決定し、新たな一

年頭のごあいさつ

地域の皆さんが主役として市民生活を送っていただけるようなまちづくりも積極的に進めてまいりました。文化センターやふれあいセンターを整備してきたこともその一つといえます。

40年の長い年月には、言葉では言い尽くせない多くの皆さんの知恵と、ご苦労・ご努力がありました。そして育まれてきた東村山のまちづくりをこれからもさらに発展させるべく、私は皆さんとともに、着実に歩んでまいりたいと決意を新たにしております。16年度中には、市制40周年を記念するイベントを計画しております。ぜひご参加いただき、今の東村山を感じていただくとともに、今後のまちづくりについて語り合ってくださいませ。



東村山市議会議員 渡部 尚

歩を踏み出したところです。昨年、国と地方双方で構造改革・地方制度改革をめぐって大きな議論となりました。私たちの議会でも、「税源移譲を基本とする三位一体改革の早期実現を求める意見書」を国に対し提出し、分権

社会を支える税・財政改革を求めたいところです。また、特別委員会を審査を重ねてきた本町都営北プロックの都営住宅の跡地利用について、市民の皆様からいただいたご意見を踏まえ、議会としての考え方を取りまとめ、行政とともに都に要請してまいりました結果、全都的モデルプロジェクトとして位置づけられ、今後の当市のセンター地区に相応しいまちづくりが期待されるところです。本年は、市制施行40周年の節目に当たります。市議会としても、言論の府としてさらに市民に開かれた議会を目指すとともに、市民福祉の向上と住みよいまちづくりを一層推進していく考えです。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

